３．セッション１

大学教職員セッション
「IT を活用した授業の準備と運用について」
―標準的な「準備と運用ガイド」の策定―

１．IT を活用した授業スケジュール

２．e- ラーニング教材作成・授業運営チェックリスト　＜資料 1＞

３．e‐ラーニングコンテンツ作成と設置の流れ　＜資料 2＞

平成26年度　ITを活用した授業スケジュール

I. STEP1（基礎知識の修得）

1.岩手医科大学歯学部3年生に対する授業計画

授業（回）（90分）	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	到達目標	担当
授業1	平成26年 9月22日(月)	4	**オリエンテーション** 三大学連携IT教育の目的、使用設備について理解する。	1. 三大学連携IT教育で学ぶ目標を説明する。 3. 電子ポートフォリオを作成する。 2. PCを用いて必要な情報を得る。	城 茂治 教授（歯科麻酔学分野）
授業2	平成26年 10月2日(木)	1	**トライアル** 三大学連携IT教育システムについて習熟する。	1. ITシステムに接続できる。 2. ITシステムを利用できる。 3. 電子ポートフォリオを作成する。 4. ITシステムのトラブルに対処する。 5. ITシステムの使用規約を遵守する。	城 茂治 教授（歯科麻酔学分野）
授業3	平成26年 10月2日(木)	2	**高齢社会と歯科医療１** 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考る。	1. 高齢化社会について説明する。 2. 高齢化社会と歯科医療について概説する。 3. 高齢者に多く見られる基礎疾患について列挙する。	岸　光男 准教授 （予防歯科学分野）
授業4	平成26年 10月3日(金)	1	**高齢化会とチーム医療１** 脳梗塞を合併した歯科患者を通して医療・歯科医療の仕組みと連携を学ぶ。	1. 脳梗塞発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説する。 2. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明する。	藤村朗 教授（機能形態学分野） 須和部 京介（歯周療法学分野）
授業5	平成26年 10月3日(金)	2	**高齢社会とチーム医療２** 脳梗塞を合併した歯科患者を通して歯科が担う役割を学ぶ。	高齢者の口腔の変化、特に口腔乾燥症について学習する。 １．唾液について概説できる。 ２．口腔乾燥症の成因を列挙できる。 ３．口腔乾燥症による影響を列挙できる。	藤村 朗教授（機能形態学分野） 須和部 京介（歯周療法学分野）
授業6	平成26年 10月27日(月)	1	**高齢社会と歯科医療2** 高齢者の身体的、心理的特徴を理解し、医療面接時の注意点について学ぶ。	1.医療面接の目的と方法を説明する。 2.主訴、既往歴、現病歴の定義を説明する。 3.医療情報の収集法を説明する。 4.基礎疾患を有する高齢者での医療面接での注意点を列挙する。 5.SOAPについて説明する。	城 茂治 教授（歯科麻酔学分野） 近藤 尚知 教授 （補綴・インプラント学講座）
授業7	平成26年 10月28日(火)	1	**高齢者の口腔疾患** 高齢者に多く見られる口腔疾患（特に口腔乾燥症）について学ぶ。	1. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明する。 2. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明する。 3. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について説明する。	小林 琢也 講師（補綴・インプラント学講座） 熊谷 章子 助教(口腔外科学分野)
授業8	平成26年 10月28日(火)	2	**高齢者の口腔疾患** 高齢者に多く見られる口腔疾患（特に口腔乾燥症）の口腔審査法と検査について学ぶ。	1. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施する。 2. 検査の結果を評価する。 3. 異常の原因や原疾患を概説する。	熊谷 章子 助教(口腔外科学分野) 小林 琢也 講師（補綴・インプラント学講座）

2.北海道医療大学歯学部3年生に対する授業計画

授業（回）（80分）	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	到達目標	担当
授業1	平成26年 4月10日(木)	2	**全身がわかる歯科医師がなぜ必要か**	全身がわかる歯科医師がなぜ必要かについての社会背景が説明できる。	草野 薫 講師（顎顔面口腔外科学分野）
授業2	平成26年 7月10日(木)	2	**超高齢社会と歯科医療**	1. 超高齢社会について説明できる。 2. 超高齢社会と歯科医療について概説できる。 3. 高齢者に多く見られる基礎疾患について列挙できる。	千葉 逸朗 教授（保健衛生学） 入江 一元 教授（組織学）
授業3	平成26年 7月17日（木）	2	**超高齢社会とチーム医療①**	高齢者の心身の特徴を概説できる。	越野　寿 教授（咬合再建補綴学） 豊下 祥史 講師（咬合再建補綴学）
授業4	平成26年 7月24日（木）	2	**口腔乾燥症と疾患**	1. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。 2. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。 3. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について説明できる	安彦 善裕 教授 （臨床口腔病理学） 長澤 敏行 准教授(個体差健康科学研究所)
授業5	平成26年 8月21日（木）	2	**超高齢社会とチーム医療②**	高齢者の疾患と死因の特徴について概説できる。	越野　寿 教授（咬合再建補綴学） 豊下 祥史 講師（咬合再建補綴学）

3.昭和大学歯学部3年生に対する授業計画

ヒトの病気

授業（回）（90分）	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	学習内容	担当
授業1	平成26年 4月16日(水)	3	**歯科診療中の全身管理と救急医療**	1. 術中の全身管理について説明できる。 2. 歯科診療中の医療安全と救急対応について説明できる。	飯島　毅彦 教授（歯科麻酔科学）

チーム医療と口腔医学 I

授業（回）（90分）	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	学習内容	担当
授業1	平成26年 9月16日(火)	1	**全身がわかる歯科医師がなぜ必要か？**	日本の高齢化率、将来人口推計から今後の日本の社会と医療を考える。高齢者の身体的、心理学的特徴と高頻度に見られる基礎疾患と口腔疾患を学ぶ。ビデオを通じて、歯科診療と全身状態との関連について考える。	片岡 竜太 教授（歯学教育学）
授業2		2			弘中 祥司 教授（口腔衛生学）
授業3	平成26年 9月30日(火)	1	**脳梗塞を発症した患者から、医療の仕組みを学ぶ**	脳梗塞を発症し、入院加療の後に、自宅療養中の患者の歯科受診を通して、医療・歯科医療の仕組みと連携を学ぶ。チーム医療の基本（構成メンバーと役割）および歯科が担う口腔のケアの目的を学ぶ。	弘中 祥司 教授（口腔衛生学）
授業4		2			
授業5	平成26年 9月30日(火)	3	**口腔乾燥症と疾患①**	唾液・唾液分泌機能について、基本的事項をe-learningで学ぶ。基礎疾患を有する患者のシナリオを用いてSmall Group Discussionにより唾液分泌に影響を与える因子とそのメカニズムについて学習する。	美島 健二 教授（口腔病理学）
授業6		4			
授業7	平成26年 10月7日(火)	1	**口腔乾燥症と疾患②**	グループで課題に対する説明を考え発表する。発表後、e-learningとリソース講義により唾液・唾液分泌における基本的事項の確認、基礎疾患と唾液分泌障害の関連性について理解する。口腔乾燥症の患者に対する口腔ケアについて学ぶ。	美島 健二 教授（口腔病理学）
授業8		2			
授業9	平成26年 10月14日(火)	1	**口腔診察・検査実習と疾患**	唾液分泌能（ガム、サクソンテスト）、口腔乾燥度、細菌数、嚥下機能、および咬合力の測定を学生相互で実施し、結果をカルテに記入する。異常値が得られた場合、原因や原疾患についてe-learningで学ぶ。これらの検査を活用したD5病棟実習についてリソース講義で学ぶ。	美島 健二 教授（口腔病理学） 田中 準一 助教（口腔病理学） 井上 富雄教 授（口腔生理学） 中村 史朗 講師（口腔生理学） 望月 文子 助教（口腔生理学） 桑田 啓貴 教授（口腔微生） 森崎 弘史　講師（口腔微生）
授業10		2			

4. オリエンテーション

1. 岩手医科大学3年生：　　9月22日（月）4限, 三大学連携IT教育の目的、使用設備について理解する。 10月2日（木）1 限トライアル、2 限目より授業開始
2. 北海道医療大学3年生：
3. 昭和大学3年生：

平成26年度　ITを活用した授業スケジュール

Ⅱ. STEP2（臨床推論能力の養成）

岩手医科大学歯学部4年生に対する授業計画

授業（回）（90分）	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	到達目標	担当
授業1	平成26年 9月12日(金)	4	**オリエンテーション** 三大学連携IT教育の目的、使用設備について理解する。	1. 三大学連携IT教育で学ぶ目標を説明する。 2. PCを用いて必要な情報を得る。 3. 電子ポートフォリオを作成する。	城 茂治 教授（歯科麻酔学分野）
授業2	平成26年 9月25日(木)	4	**トライアル** 三大学連携IT教育システムについて習熟する。	1. ITシステムに接続できる。 2. ITシステムを利用できる。 3. 電子ポートフォリオを作成する。 4. ITシステムのトラブルに対処する。 5. ITシステムの使用規約を遵守する。	城 茂治 教授（歯科麻酔学分野）
授業3	平成26年 10月2日(木)	1	**高齢社会とチーム医療１** 高齢社会でのチーム医療を行うに当たり、全身的な知識がどのように必要かを理解する。	1.高齢者に多く見られる基礎疾患を列挙する。 2.基礎疾患を有する患者の歯科診療時における注意点を挙げる。 3.口腔内科的疾患について概説する。 4.脳梗塞発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説する。	城 茂治 教授（歯科麻酔学分野）
授業4		2	**高齢社会とチーム医療２** 脳梗塞などの疾患で入院した高齢者に対するチーム医療での歯科の関わりについて学び、急性期の歯科医師の役割を理解する。	1.脳卒中の急性期症状と全身および口腔の機能について説明する。 2.急性期のチーム医療体制を説明する。 3.病院における急性期の医療・歯科の連携医療を説明する。 4.病院における急性期患者に対する口腔ケアの実施について説明する。	藤村 朗 教授（機能形態学分野） 須和部 京介（歯周療法学分野）
授業5	平成26年 10月8日(水)	3	**高齢社会とチーム医療３** 脳梗塞などの疾患を合併した高齢者に対するチーム医療での歯科の関わりについて学び、慢性期の歯科医師の役割を理解する。	高齢者の口腔の変化、特に口腔乾燥症について学習する。 １.唾液について概説できる。 ２.口腔乾燥症の成因を列挙できる。 ３.口腔乾燥症による影響を列挙できる。	藤村 朗 教授（機能形態学分野） 須和部 京介（歯周療法学分野）
授業6		4	**高齢社会と歯科医療１** 高齢者で多く見られる基礎的疾患を理解し、歯科治療時の注意点について学ぶ。	1.高齢者で多く見られる基礎疾患を列挙する。 2.糖尿病について説明する。 3.高血圧症について説明する。 4.糖尿病を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。 5.高血圧症を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。	城 茂治 教授（歯科麻酔学分野） 近藤 尚知 教授 （補綴・インプラント学講座）
授業7	平成26年 10月10日(金)	4	**高齢社会と歯科医療２** 高齢者で多く見られる基礎的疾患を理解し、歯科治療時の注意点について学ぶ。	1.不整脈について説明する。 2.心房細動を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。 3.抗凝固療法の適応について説明する。 4.抗凝固療法中の高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。	城 茂治 教授（歯科麻酔学分野） 近藤 尚知 教授 （補綴・インプラント学講座）
授業8	平成26年 10月14日(火)	4	**高齢者の口腔疾患1** 高齢者に多く見られる口腔疾患（特に口腔乾燥症）の口腔審査法と検査について学ぶ。	1. 口腔乾燥を訴える患者の医療面接の要点を挙げる。 2. 口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断をする。 3. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について説明する。 4. 口腔乾燥症の診断基準を挙げる。 5. 口腔乾燥症の治療法を説明する。	熊谷 章子 助教(口腔外科学分野) 小林 琢也 講師（補綴・インプラント学講座）
授業9	平成26年 10月17日(金)	3	**高齢者の口腔疾患２** 口腔乾燥症の口腔審査法と検査について学ぶ。	1. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、 細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施する。 2. 検査の結果を評価する。 3. 検査の結果を説明する。 4. 検査結果から診断する。	岸 光男 准教授(予防歯科学分野) 熊谷 章子 助教(口腔外科学分野) 小林 琢也 講師（補綴・インプラント学講座）他
授業10		4			

北海道医療大学歯学部5年生に対する授業計画

授業（回）（80分）	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	到達目標	担当
授業1	平成26年 7月11日(金)	1	**超高齢社会とチーム医療①**	高齢者の心身の特徴を概説できる。	越野　寿 教授（咬合再建補綴学） 豊下 祥史 講師（咬合再建補綴学）
授業2		2	**VP教材についての オリエンテーション**	VP教材の使用方法について学ぶ。	越野　寿 教授（咬合再建補綴学） 豊下 祥史 講師（咬合再建補綴学）
授業3	平成26年 8月29日(金) または 9月5日(金)	1	**チーム医療における歯科医師の 役割（回復期）**	脳梗塞などの疾患に罹患した患者に対して退院後に行う地域連携医療 の実際について、VPやe-ラーニングで学ぶ。	越野　寿 教授（咬合再建補綴学） 豊下 祥史 講師（咬合再建補綴学）
授業4		2			

昭和大学歯学部4年生に対する授業計画

授業（回）（90分）	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	学習内容	担当
授業0	平成26年 9月18日(木)	2	**オリエンテーション ※口腔科学の基礎と展開（口腔科学）枠内交番30分間で行なう**	VPの使い方を修得する	片岡　竜太 教授(歯学部　歯科教育推進室)
授業1	平成26年 9月30日(火)	3	**歯科診療と全身疾患 チーム医療と口腔内科**	本ユニットの目的を理解する。基礎疾患と歯科診療との関連について e-ラーニングなどで学ぶ。チーム医療を行うにあたり、口腔内科的	片岡　竜太 教授(歯学部　歯科教育推進室)
授業2		4	**薬物に関する情報収集と処方箋の書き方**	お薬手帳や医薬品添付文書から必要な情報を収集する。処方箋の書き方を学ぶ	加藤　裕久 教授 (薬学部　医薬情報解析学)
授業3,4	平成26年 10月7日(火)	3 4	**口腔乾燥を訴える患者に対する 医療面接・口腔乾燥症の症状と診断**	口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断についてe-ラーニングで学ぶ。口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容について、VPやe-ラーニングで学ぶ。口腔乾燥症の症状や診断について学ぶ。	美島　健二 教授(歯学部　口腔病理学) 鎌谷　宇明 講師（歯学部　顎顔面口腔外科）
授業5	平成26年 10月14日(火)	3	**口腔乾燥症に対するケア**	口腔乾燥が見られる患者に対する口腔のケアについて学ぶ。	弘中　祥司 教授 (歯学部　口腔衛生学)
授業6		4	**高齢社会と歯科医療 高齢者で多く見られる基礎的疾患を理解し、歯科治療時の注意点について学ぶ。**	1.高齢者で多く見られる基礎疾患を列挙する。 2.糖尿病について説明する。 3.高血圧症について説明する。 4.糖尿病を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。 5.高血圧症を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。 6.不整脈について説明する。 7.心房細動を合併する高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。 8.抗凝固療法の適応について説明する。 9.抗凝固療法中の高齢者の歯科治療中の注意点を列挙する。	片岡　竜太 教授(歯学部　歯科教育推進室)
授業7	平成26年 10月21日(火)	3	**薬物の副作用とその予防策**	薬物によって生じる代表的な副作用とその症状、治療、予防策を説明できる	山元　俊憲 教授 (薬学部　臨床薬学)
授業8		4	**EBMと診療ガイドラインの活用**	代表的な疾患（循環器、脳血管障害）の診療ガイドラインと標準的な薬物治療を学ぶと同時に歯科診療との関連を考える。	加藤　裕久 教授 (薬学部　医薬情報解析学)
授業9	平成26年 10月28日(火)	3	**特別の配慮が必要な患者に対する薬物治療**	高齢者、妊婦、小児と歯科診療で遭遇する頻度が高い疾患の患者 (高血圧、不整脈、虚血性心疾患)、脳卒中、糖尿病、喘息、骨粗鬆症など）に対する薬物治療について学ぶ。	木内　祐二 教授 (薬学部　薬学教育推進室)
授業10		4	**高齢者に対する服薬指導の実際を学ぶ**	医薬品と剤形の種類を学び嚥下障害や口腔乾燥を有する患者に対する服薬の実際を学ぶ。	倉田　なおみ 教授 (薬学部　地域医療薬学)
授業11	平成26年 11月5日(水)	3	**チーム医療における歯科医師の 役割（急性期）**	脳梗塞などの疾患に罹患した患者に対して入院中に行うチーム医療の実際について、VPやe-ラーニングで学ぶ。	弘中　祥司 教授（口腔衛生学）
授業12		4	**チーム医療における歯科医師の 役割（回復期）**	脳梗塞などの疾患に罹患した患者に対して退院後に行う地域連携医療の実際について、VPやe-ラーニングで学ぶ。	弘中　祥司 教授（口腔衛生学）
授業13,14	平成26年 11月12日(水)	3	**基礎疾患を有する患者・がん化学療法、放射線治療中の患者に対する口腔ケアを学ぶ**	予防歯科体実習、地域連携歯科医療実習に備えて、基礎疾患を有する患者・がん化学療法、放射線治療中の患者の口腔内の症状とそれぞれに対応した口腔ケアの実際を学ぶ。（旗の台5号館5階実習室を使用）	弘中　祥司 教授（口腔衛生学）
授業15,16	平成26年 11月12日(水)	4	**投与されている薬剤から患者の全身状態、 口腔への影響を予測する。**	演習形式でお薬手帳を見て、患者の全身状態と口腔への影響を予測する方法を学ぶ。	倉田　なおみ 教授 (薬学部　地域医療薬学) 木内　祐二 教授 (薬学部　薬学教育推進

4. オリエンテーション

1. 岩手医科大学4年生：　9月12日（金）オリエンテーション、9月25日（木）トライアル。10月2日（木）授業開始。
2. 北海道医療大学5年生：7月11日（金）　昨年度の教材・VPについてのオリエンテーション
3. 昭和大学4年生：　9月18日（木）　授業中に課題を出して、9月25日までに提出するように指示する。

e-ラーニング教材作成・授業運営チェックリスト

チェック項目	担当者
Ⅰ. 科目開講前の作業	
1 e-ラーニングコースの準備	学務 （金沢電子出版）
Ⅱ. 各回の授業前の作業	
1 e-ラーニングコンテンツの作成と設置（開講前の作業）	担当教員 金沢電子出版
Ⅲ. 各回の授業中の作業	
1 授業コンテンツの利用	講義係
Ⅳ. 各回の授業後の作業	
1 授業アンケートの集計，分析	ITを活用した教育センター
2 授業コースを閉じ、復習課題を開ける	担当教員
3 授業達成度，学習効果の分析	担当教員
4 事後課題，復習状況の確認	担当教員
Ⅴ. 科目閉講後の作業	
1 学習履歴，成績の分析，報告	担当教員
2 実施コースの達成度，効果の分析，報告	担当教員

e-ラーニング教材作成・授業運営チェックリスト(担当教員用)

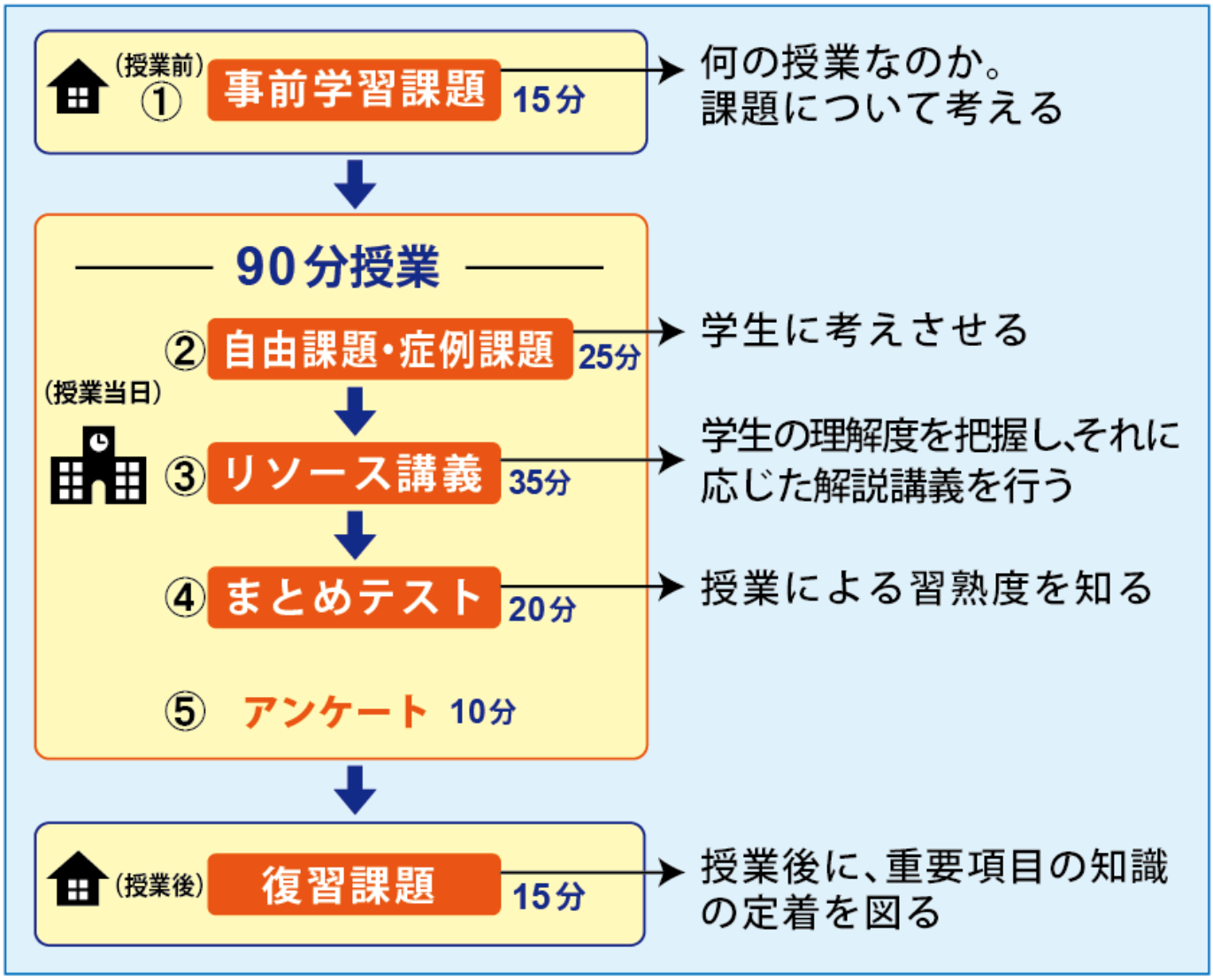
チェック項目	作業予定日	担当者	概要
Ⅰ. 科目開講前の作業			
1 e-ラーニングコースの準備			
1) 使用するe-ラーニングコースの作成, 設定			
(1) 授業計画(シラバスの作成)		学務	
(2) e-ラーニングコースの作成(e-ラーニングを用いる場合)		学務 金沢電子出版	シラバスに沿ってコースを作成する
2) ユーザーの登録			
(1) システムにユーザーを登録する	入学時	学務	
(2) 使用するe-ラーニングコースに学生と教員を登録(ロールを割り当てる)する(シラバスに準拠)		学務	シラバスに沿って学生と教員を登録する
Ⅱ. 各回の授業前の作業			
1 e-ラーニングコンテンツの作成と設置(開講前の作業)			
1) e-ラーニングコンテンツの作成		担当教員	
(1) 各回毎の授業進行 (word, ppt等で作成)		担当教員	資料1-1 参照
① e-ラーニングコンテンツを作成する(ppt等で作成)		担当教員	資料1-2 参照
② e-ラーニングコンテンツの作成を金沢電子出版に依頼する		担当教員	
③ 金沢電子出版が作成したe-ラーニングコンテンツを確認・校正する		担当教員	
(2) e-ラーニングコンテンツを登録する		金沢電子出版 (担当教員)	
(3) e-ラーニングコンテンツを設定する		担当教員	1問目解答後2問目へ進める、10分後に次の問題へ進める等の設定
(4) テスト学生アカウント(st01～st10)で確認する		担当教員	
(5) 事前学習課題を周知する(ポータル掲示)		担当教員	
2) 事前学習課題の提出(履修)状況の確認		担当教員	
(1) 事前学習課題の提出状況を確認する		担当教員	
Ⅲ. 各回の授業中の作業			
1 授業コンテンツの利用		講義係	
1) 学習進行の調整		講義係	
(1) 小テストやアンケート等は学生が勝手に進めないように順次公開する		講義係	
2) 理解度・習熟度の確認		講義係	
(1) 学生履修状況の確認		講義係	
(2) 学生正答率の確認		講義係	
(3) アンケートの実施		講義係	
Ⅳ. 各回の授業後の作業			
1 授業アンケートの集計, 分析		ITを活用した 教育センター	
2 授業コースを閉じ、復習課題を開ける		担当教員	
3 授業達成度, 学習効果の分析		担当教員	
4 事後課題, 復習状況の確認		担当教員	
Ⅴ. 科目閉講後の作業			
1 学習履歴, 成績の分析, 報告		担当教員	
2 実施コースの達成度, 効果の分析, 報告		担当教員	

e-ラーニング教材作成・授業運営チェックリスト(講義係用)

チェック項目	作業予定日	担当者	概要
Ⅰ. 科目開講前の作業			
Ⅱ. 各回の授業前の作業			
1 備品の準備		講義係	
1) 予備PCの準備		講義係	
(1) アンチウィルスソフトは動作しているか		講義係	
(2) 電源ケーブルはあるか		講義係	
2) 講義室備品の確認		講義係	
(1) プロジェクタ、スクリーン、マイク、スピーカは利用できるか		講義係	学生にビデオを閲覧させる場合はプロジェクタを利用する
(2) 講義室の電源は学生数あるか		講義係	
Ⅲ. 各回の授業中の作業			
1 機器等動作確認		講義係	
1) 学生パソコンの起動の確認		講義係	
(1) 電源, ケーブル, 設置等, 安全を確認		講義係	
(2) 正常に起動しているか？		講義係	
(3) 余分なソフトが立ち上がっていないか？		講義係	
(4) インターネットに接続できているか？		講義係	
(5) (昭和大のみ)セキュリティキーは設定されているか？ (Showa :ec8900000)		講義係	
2) e－ラーニングシステムへの接続確認		講義係	
(1) 正しくサイトURLにアクセスできているか？		講義係	
(2) ユーザー名, パスワードを用いてログインできているか？		講義係	
(3) 今回の授業で利用するコースおよびコンテンツにアクセスできているか？		講義係	

e-ラーニングコンテンツ作成と設置の流れ

1. 各回毎の授業進行案作成（word, ppt等で作成）：教員



＜配布資料＞

事前学習課題、講義資料（③で配布）

アンケート用紙（⑤配布）

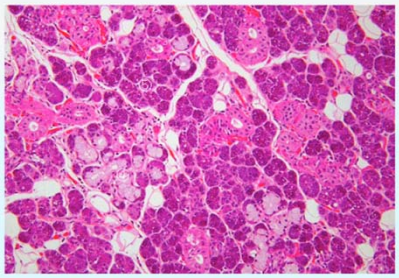
e-ラーニングコンテンツ作成と設置の流れ

2. e-ラーニングコンテンツを作成する（ppt等で作成）：教員

e-ラーニングコンテンツ構成案

組織学的には、耳下腺は（①）腺、顎下腺は、漿液腺優位の粘液腺を含む（②）腺、また、舌下腺は粘液腺優位の（③）腺を含む混合線よりなる。
粘液線は（④）を豊富に含む淡明な細胞質と偏在する核を持つ細胞で、一方、漿液腺は、（⑤）などの酵素を多数含み紫色の顆粒状の細胞質を持つ細胞

赤字は解答で記入不要



解答欄：
①純漿液
②混　合
③粘　液
④ムチン
⑤アミラーゼ

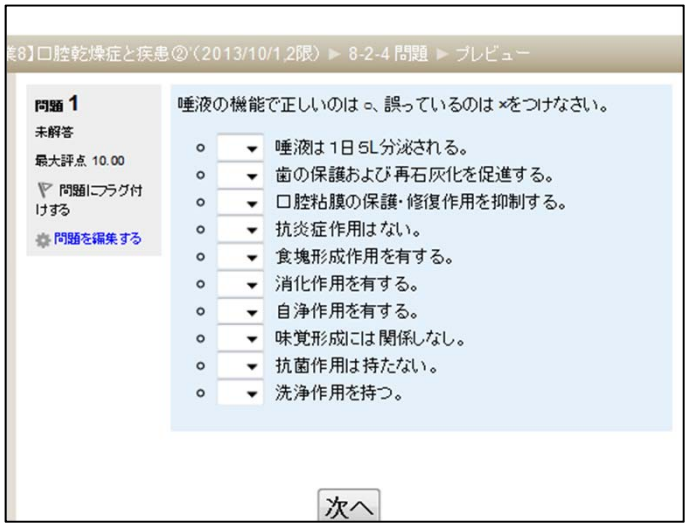
（入力文字数：各ボックス7文字）

唾液の機能で正しいのは○、誤っているのは×をつけなさい。

（ X ）唾液は1日5L分泌される。
（ O ）歯の保護および再石灰化を促進する。
（ X ）口腔粘膜の保護・修復作用を抑制する。
（ X ）抗炎症作用はない。
（ O ）食塊形成作用を有する。
（ O ）消化作用を有する。
（ O ）自浄作用を有する。
（ X ）味覚形成には関係しなし。
（ X ）抗菌作用は持たない。
（ O ）洗浄作用を持つ。

金沢電子出版が作成したe-ラーニングコンテンツ





セッション１：大学教職員セッション「ＩＴを活用した授業と準備の運用について」
ー標準的な「準備と運用ガイド」の策定－　印象記

ワーキンググループ１

昭和大学 歯学部
顎口腔疾患制御外科学講座
鎌谷　宇明

昭和大学、岩手医科大学、北海道医療大学の教務担当の職員ならびに授業担当した教員から、ワークショップで作成したコンテンツを利用した授業について報告があった。

これまで4回の「IT を活用した教育センターワークショップ」の成果により、各大学とも順調に授業が進行し、教育効果が高くみられたとの報告が相次ぎ、このワークショップの意義が再確認された。

ネットワークの設定など幾つかの問題点も指摘されたが、個々のコンピュータの設定で解決できるような些細な点ばかりであり、VP などの本ワークショップで検討しているソフトウェアの問題点は少ないようであった。

今回の第 5 回ワークショップによって、各ワーキンググループのコンテンツは完成するものと期待された。

セッション１：大学教職員セッション「ＩＴを活用した授業と準備の運用について」
ー標準的な「準備と運用ガイド」の策定－　印象記

ワーキンググループ２

北海道医療大学 歯学部
生体機能・病態学系顎顔面口腔外科学分野
草野　薫

大学教員セッションにて、各大学の講義予定、授業計画について説明があった。基礎知識の習得では、岩手医科大学歯学部 3 年で8コマ、北海道医療大学歯学部 3 年生で 5 コマ、昭和大学歯学部歯学部 3 年生で 10 コマ、臨床推論能力の養成では、岩手医科大学歯学部 4 年で 10 コマ、北海道医療大学歯学部 5 年生で 4 コマ、昭和大学歯学部歯学部 4 年生で 9 コマの予定が報告された。各大学でのコマ数やコース状況が異なっていた。

標準的な授業進行案の作成については、開講前の e-ラーニングコースの準備は昭和大学学務（金沢電子出版）が行っており、各大学のシラバス作成状況、公表方法について説明があった。

昭和大学は3、4年でそれぞれ専門のコース立てを行っている。また紙媒体でのシラバスから電子媒体でのシラバスへ変更を、岩手医科大学では、3、4年生で 1 本の科目として行うようにし、シラバスは紙媒体で行う予定で、北海道医療大学のシラバスは Web で作成し、Web と紙媒体での提供を行っているとのことであり、IT を活用した教育が目標であり、Web 化や電子化が必須である印象を受けた。

また、授業前の準備に関して、各大学のユーザー登録状況が報告され、既にユーザー登録が済んでいる大学もあり、進行状況に少し大学間でばらつきがあった。

各回の授業前の作業として、e ラーニングコンテンツの作成、登録から設定までの流れの説明があった。コンテンツの作成についてはパワーポイントの資料を金沢電子出版に依頼すると e-ラーニングコンテンツに変更して頂けるとの報告があり、オリジナルの問題に関しては穴埋め形式で行い、変更して頂いた資料を教員側が最終的に確認し、問題無ければ学生が使用する。この方法を周知していく必要があると感じた。

授業コンテンツの利用としての学習進行の調整、理解度・習熟度の確認、特に履修状況、正答率、アンケートの実施の重要性について理解と重要性が認識できた。アンケートに関しては無記名、匿名性を担保する難しさがあり、ID 等で個人が特定されてしまうため、アンケートは事務職員限定のコース立てするような説明があったが、学生が回答しにくい環境は、今後の改善につながらないと感じられる。

今後の課題としては、PC 操作や iPad などによる入力による困難さや成績の分析にかんしてばらつきが出る。そのため採点の難しさなど問題点があげられた。IT を活用した教育が目標であり、最終的に教育効果が高まることが目的であるということを常に意識して今後も参加しなければいけないと再認識した。

セッション１：大学教職員セッション「ＩＴを活用した授業と準備の運用について」
ー標準的な「準備と運用ガイド」の策定－　印象記

ワーキンググループ３

岩手医科大学 歯学部
解剖学講座 機能形態学分野
藤村　朗

本セッションでは、本プロジェクトで作成するコンテンツの標準化とそのための運用マニュアルを作成するための 3 大学における進捗状況の確認を行った。

☆本プロジェクトに関係する講義は
北海道医療大学:「リハビリテーション概略」の一部として行っている。
岩手医科大学　:臨床科目を症例ごとのコース（複数科で担当）制をとっているが、コースの一つとして行っている。
昭和大学　　:科目立てをして行っている。
☆シラバスについて
北海道医療大学:電子化済
岩手医科大学　:紙媒体（来年度以降で電子化を検討中）
昭和大学　　:今年から電子化済
☆アンケートの実施については、昨年までマークシート方式で行っていた。実際には用紙を昭和大学から2 大学に送付。記入後、2 大学から用紙を返送していた。理由は無記名性を担保するため。今年からは設定で管理者を限定すること、管理者は教員以外とする、ということで対応できることが判明したので、予防的に用紙は送るが、基本的には Web 上で行う予定。本来の IT に一歩近づく。
☆問題集の履歴を自動的に学生に通知することはできるか？つまり、一切受験しない学生に受験を自動的に促すことはできるか。運用面で、登録 ID を大学の学籍番号、電話番号等に統一できればできる。
☆コンテンツ、問題の作成については、モニター上の解答欄に学生が文字を書くという方法はとれないのか？という希望が出た。現時点ではなかなかできないが、フィードバックの中に注意を喚起すような方法で対応できると思う。キーボード等での記入は必ずしも考えていない。特に、タブレット、iPad では入力が難しいと考えている。

☆本プロジェクトの効果について単なる学生へのアンケートだけではだめで、何らかの点数化した評価をすべき、とのコメントが国から来ているらしい。国はアンケートの自由記載欄の重要性を否定している様であるが、唯一本音が聞ける欄だと思う。

本プロジェクトに参加して、今回が 3 回目であるが、やっと少し目的が分かったような気がする。そこで気が付いたこととして、作成したコンテンツ、復習問題等のテスト問題で使う写真、模式図、問題文が公募国試、CBT 問題に使えなくなるのでは、という疑問がある。特に 3 大学間では共有することになるため、学内限定の問題等は結局共有できなくなる。そのあたりの基準も作成する必要があると思う。

セッション１：大学教職員セッション「ＩＴを活用した授業と準備の運用について」
ー標準的な「準備と運用ガイド」の策定－　印象記

ワーキンググループ４

岩手医科大学 歯学部
歯科保存学講座歯周療法学分野
須和部京介

IT を活用した授業と準備の運用について各大学の担当者より現在の状況と今後の予定についての報告がなされた。

STEP 1 について岩手医大は藤村先生より全８回の授業について説明。北海道医療大学は越野先生より全 5 回の授業について説明。昭和大学は片岡先生より全 6 回の授業について説明がなされた。また、STEP2 について岩手医大では全 10 回の授業を行うことが説明され、北海道医療大学では５年生の高齢者歯科学の授業において全 4 回の授業が実施予定であることが報告され、３年生教材と VP 教材を混合して使用することが説明された。昭和大学では全 9 回の授業を実施予定とのことだが、全学生 100 名同時に VP システムにアクセスしたことがないとのことで、トライアル時に動作確認行うことが説明された。

e-ラーニング教材作成・授業運営チェックリストを元に各大学の現在の準備状況の確認を行った。

シラバスについて、昭和大学は媒体を紙から web へ移行、岩手医科大学は３年４年それぞれの紙シラバスへ掲載、北海道医療大学はシラバスを web 上で掲載し、紙媒体でも配布しているとの報告があった。

e-ラーニングの作成について昭和大学は教員・学生ユーザー登録を終え、e-ラーニング上にシラバスに沿ってコースを作成しており、岩手医大は７月中に準備すすめるとの報告、北海道医療大学は、ユーザー登録が完了しているとの報告だった。

各回毎の授業進行について、授業時間は北海道医療大学が 80 分、昭和大学・岩手医大は 90 分の授業であることが確認された。また、授業で使用するコンテンツはパワーポイントで作成し、金沢電子出版へ依頼しコンテンツ作成していくことが再度確認された。

授業後のアンケートについて、アンケートはより正確な内容を求めるのであれば、匿名性があることが理想であることが確認された。コンテンツ上にアンケートを実施し、集計するが、コンテンツが起動しないことも留意し、その際はマークシートでアンケートを実施することで 3 大学同意された。

また、全体を通じての質疑応答事項として、コンテンツ内の質問に対する学生の解答で漢字の読み方や漢字違い等の記入した際の対応について討論が行われた。また、ipad 等のタブレット対応について何人かから質問があった。その際、開発側からの解答として、VP システムについてはタブレット向きではく、WindowsOS PC で実施してほしいとのお話があった。